

さんもくせい

平成29年10月12日発行
静岡県養護教諭研究会
代 表 山崎 永子
(菊川市立菊川西中学校)



「社会の変化と保健室」



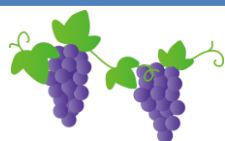
静岡県養護教諭研究会 幹事 鈴木 雅己

「10年前にはなかったが今ある便利なものは何か？」これは本校の朝礼で、校長先生が生徒へ投げかけた質問です。「スマホ、3DS、ネット通販…」等、生徒たちからたくさんの回答がありました。次に、「10年、20年後に大きく変化する仕事や新しく生まれる仕事にはどんなものがあるか？そんな中でも変わらず残っている仕事や職業はどんなものが予想されるか？」という質問がありました。今ある職業のいくつかはロボットや人工知能がとって代わることになるそうですが、それを聞き私は、「10年後、養護教諭の仕事はどうなっているのか。」と考えさせられました。

昨年度から調査研究委員をさせていただいているので、10年前の実態調査の資料を紐解き、比較してみました。すると、10年前にはなかったけれど今ある調査項目として、「危機管理」「食物アレルギー」「熱中症対策」等、「緊急対応」に関するものが追加されており、時代の変化とともに養護教諭に求められている役割も多様化してきていると改めて感じました。

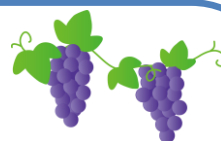
次期学習指導要領では、社会が急速に変化していく中で、生徒たちには自分で考え、判断し、主体的に課題を解決する力を身に付けていくことが求められています。養護教諭としても、10年、20年後を見据え、どんな力を付けなくてはいけないのか、また、変わらず大事にしなければいけないことは何か等を考え、研修をしていきたいと思います。

さて、次回の朝礼では、20年後も変わらない職業の予想をすることになっています。生徒からの回答の中に「養護教諭」はあるのでしょうか…。楽しみです。



地区紹介

浜松地区



浜松地区は、小学校94校、中学校46校、小中一貫校3校、会員158名で組織されています。「養護教諭の資質向上を目指して」を研究テーマとし、市内を8つのブロックに分け、地区ごとの健康課題に取り組む“ブロック別研修”を事業計画の中心に位置付けています。年3回の研修会では、ブロックごとにテーマや研修内容を決め、専門的知識を習得するための研修を進めています。本年度は、スポーツ外傷や頭部外傷等の講話と総合病院の視察研修、市教委指導主事を講師とした緊急対応ケーススタディ、特別支援教育の研修、高等学校養護教諭との合同研修等を計画しました。また、ブロック別研修は、日常職務について情報交換を図り、一人職として職務を行う上での課題解決につながる貴重な場ともなっています。

浜松地区全体としては、研修のさらなる充実と若手の育成が大きな課題です。今後も浜松市ならではの組織力を生かし、会員同士の横のつながりを大切に、充実した研修を進めていきたいと思っています。

養護教諭夏季研修会

平成29年8月7日(月)

静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」



ノンフィクションライター
秋山 千佳 氏

8月7日に静岡県養護教諭夏季研修会が行われました。当日は台風の影響で、当初の予定より講演時間が短くなってしまいましたが、「ルポ保健室—保健室から見えてくる現在の子ども像—」と題して、ノンフィクションライター 秋山 千佳 氏より御講演をいただきました。

講演では、保健室での子どもたちの SOS の発信とそれを受け止める養護教諭のかかわりについて、数々の取材を通して感じられたことなどの貴重なお話を伺うことができました。改めて保健室の役割や養護教諭だからできることを再確認しました。



＜アンケートより＞ ＊感想の一部を紹介します。

- ・「信じる」「待つ」「寄り添う」大切な事だと十分わかっている、日々の執務に追われつい忘れてしまいがち。改めて思い出させていただいた。保健室に求められる役割について考えさせられた。
- ・養護教諭ではない方の目線での話が新鮮だった。視点が鋭く、気付かずにいたことも教えていただいていた。がたかった。子どもを育む「手間ひま」を惜しまず、これから執務と向き合いたい。
- ・貧困から様々な悩みや困難が広がることを改めて知った。ただの困った子と認識するのではなく、その背景を知ることが大切だと学んだ。貧困の「困」に目をむけることが大切だと思った。
- ・秋山先生のような方が、保健室を社会に紹介してくださる事がありがたい。一人一人の子どもたちに寄り添い、対応するために、もっと周囲に理解してもらいたいと日々感じる。

小・中・高校交流研修会

平成29年8月22日(火) 会場：あざれあ



NPO 法人あざれあ交流会議
副代表 滝 和子 氏

今回の小中高交流研修会は、静岡県高等学校養護教育研究会、NPO 法人あざれあ交流会議、本研究会との共催で行いました。参加者は静岡県高等学校養護教育研究会役員、本研究会役員、会誌「たちばな」編集委員、地区理事です。「LGBT (性的マイノリティー)」について、前半はNPO 法人あざれあ交流会議 副代表の滝 和子 氏がコーディネーターとなり、LGBT の当事者である5名の方のパネルディスカッションが行われました。その後、研究会の会員と高校の養護教諭の小グループで、パネラーの方にも参加していただき、それぞれの立場からのお話を伺う機会を得ました。改めて正しい知識を持ち、多様性を理解することの大切さを学ばせていただきました。

以下、一部内容を紹介します。詳しくは、会誌たちばな60号に掲載予定です。

- ・学校内で性をからかいの対象にしないよう気をつける。
- ・何気ない一言で傷ついてしまうこともあるので日常の言葉かけや性の授業などでもフォローの言葉が必要。
- ・保健室が安全基地になるようにポスターを貼ったり、LGBT の本や冊子を何気なく置いたりすると良い。
- ・子どもたちは養護教諭のことを「この人は話せる人なのか？」と保健室に来た時観察している。
- ・相談された時には「あなたは〇〇なのね」などと確認行動をとらずに、さらっと「そうなんだね」と受け止める方が良い。
- ・環境面では多目的トイレがあると良い。



